

## 4 最終需要による粗付加価値誘発

各産業の生産活動は最終需要によって誘発されることから、その生産活動を通じて生じる粗付加価値についても、最終需要により誘発されると言えます。このように、生産誘発と同じく、最終需要を賄うため直接・間接に必要な生産額のうちの粗付加価値部分を粗付加価値誘発額といいます。

このことから、粗付加価値誘発額の大きさは生産誘発額と同様となり、最も大きい最終需要項目は、移輸出の1兆 2,487 億円となっており、次いで民間消費支出が1兆 0,525 億円、一般政府消費支出が5,946 億円などとなっています。（表 24）

表24 最終需要と粗付加価値誘発

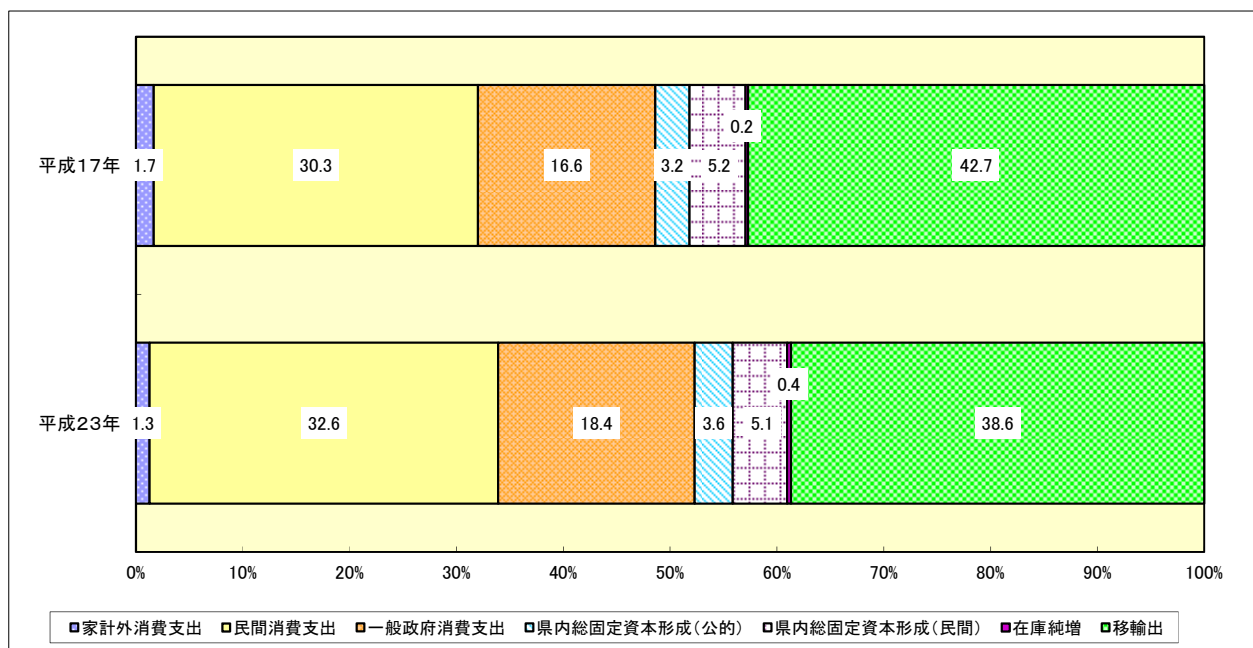
	粗付加価値誘発額(百万円)		粗付加価値誘発依存度(%)		粗付加価値誘発係数	
	平成23年	平成17年	平成23年	平成17年	平成23年	平成17年
和歌山県						
家計外消費支出	42,273	58,584	1.3	1.7	0.475465	0.442683
民間消費支出	1,052,461	1,061,001	32.6	30.3	0.513725	0.521727
一般政府消費支出	594,586	580,947	18.4	16.6	0.780488	0.801172
県内総固定資本形成(公的)	114,847	111,610	3.6	3.2	0.564870	0.581321
県内総固定資本形成(民間)	164,250	183,015	5.1	5.2	0.365093	0.386314
在庫純増	11,848	8,345	0.4	0.2	0.186867	1.383469
移輸出	1,248,694	1,493,204	38.6	42.7	0.461430	0.557263
最終需要計	3,233,014	3,496,706	100.0	100.0	0.510623	0.560155

(注) 最終需要計には調整項を含みます。なお、平成17年の移輸出には調整項を含みます。

次に、各産業部門の粗付加価値が、どの最終需要項目によりどれだけ誘発されたかの割合を示している粗付加価値誘発依存度をみると、移輸出が最も高く 38.6%と全体の約4割を占めています。次いで、民間消費支出が 32.6%、一般政府消費支出が 18.4%などとなっており、こちらも生産誘発依存度と同様の傾向となります。

また、粗付加価値誘発依存度の平成17年からの増加項目についても、生産誘発依存度と同様の傾向となり、民間消費支出、一般政府消費支出、県内総固定資本形成(公的)、在庫純増が増加しています。移輸出の減少については、移輸出額の大きい石油・石炭製品、鉄鋼、化学製品などで粗付加価値率が下がったためと考えられます。（図 20）

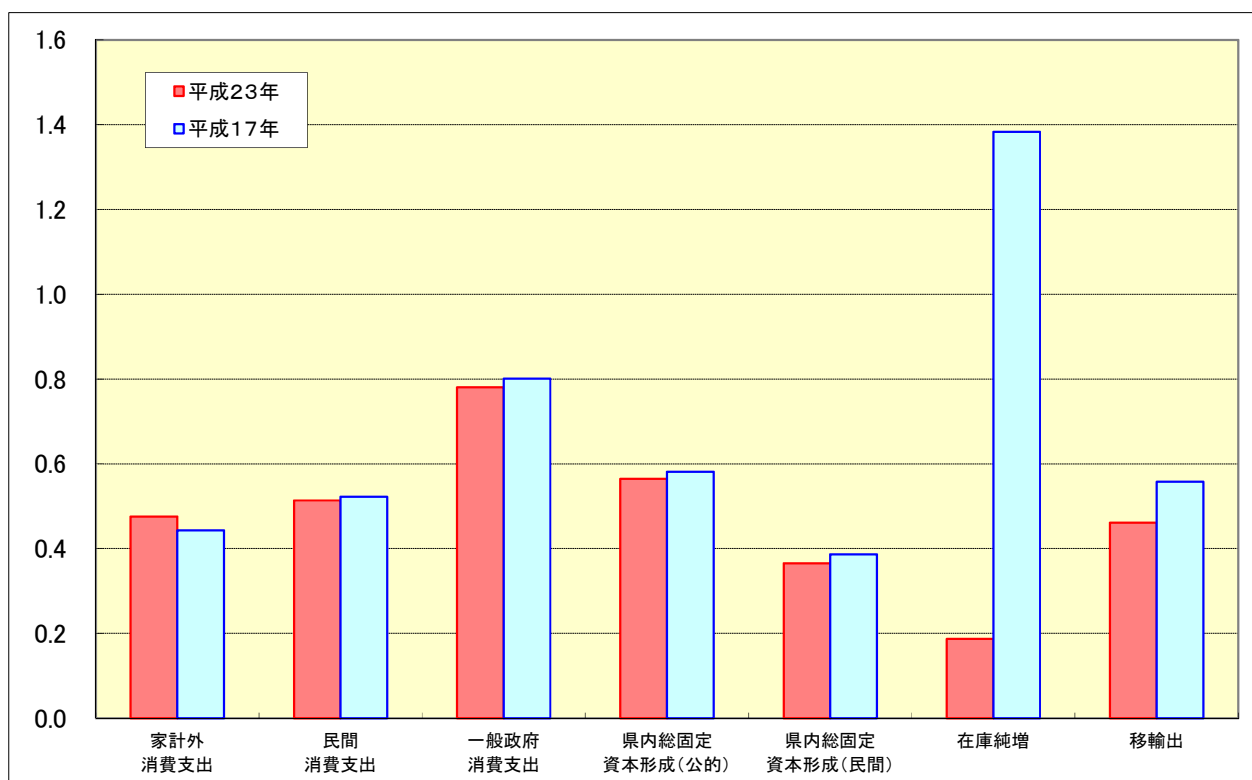
図20 最終需要項目別粗付加価値誘発依存度



また、1単位の最終需要によって、粗付加価値がどれだけ誘発されるかを表している粗付加価値誘発係数を最終需要項目別にみると、最も高いのは一般政府消費支出で0.780488倍、次いで県内総固定資本形成（公的）が0.564870倍、民間消費支出が0.513725倍などとなっています。一般政府消費支出が高い値を示しているのは、その大半を占めている、公務や教育・研究及び医療・福祉といった部門の粗付加価値率が高いためです。他の項目についても同様に、粗付加価値率の高い部門を有しているためです。

平成17年からみると、こちらは生産誘発係数とは異なり、全体でみると低下の傾向となっており、平成17年の0.560155倍に対して平成23年は0.510623倍となっています。（表24、図21）

図21 最終需要項目別粗付加価値誘発係数



## 解説

**粗付加価値誘発額** ……最終需要項目別粗付加価値誘発額合計＝県内粗付加価値額

**粗付加価値誘発依存度** ……粗付加価値誘発依存度＝各最終需要項目別粗付加価値誘発額÷  
最終需要項目別粗付加価値誘発額合計

**粗付加価値誘発係数** ……粗付加価値誘発係数＝各最終需要項目別粗付加価値誘発額÷  
各項目別最終需要額